

巻頭言

[大学に期待する]

(株) 日立製作所 顧問 三浦 武雄



産業界との情報交流を活発化し、より実践的な研究を推進する事を目的として本誌が発行される事になった事は、産業界の一員として力強い背景が出来た事と大変喜ばしく思っている。この機会に1世紀を迎えるに当たり日頃考えていること及び大学に期待することを述べる。

さて私共を取り巻く環境はネットワーク化により、グローバルリゼーション、ボーダレス、マルチメディア化と大きく変革しており人間社会を中心として新しいユーザオリエント、メガコンパクション、加えて変化の激しい社会が秒進分歩の速さで展開しようとしている。このような中で先ず考えねばならない課題としてこの大きな社会的変革に伴って起こりつつある光と影への対応、そして従来の物中心の時代から人間・心中心時代への移行に伴う対応があろう。前者に対しては今迄のお手本の通用しない時代だけに（夢）無を実現する（有）への新しいアプローチ即ち創造的なビジョン、コンセプトのあるアプローチが必要であるし、後者に対しては伝統的な文化をふまえた文化（技術革新）の調和が大切になると考える。先ずこれへの先行的挑戦が重要である。

之に加えて重視すべき課題にグローバリゼーションへの対応があり、その第一歩として世界への貢献にもっと力を入れるべきであると考え。現在私はI F I Pの理事であるが、席上強く日本に期待されていることはVisibleな貢献である。日本の世界に対する技術貢献が米欧に比して具体的に少ないと言う事である。新しい時代を迎えるに当たり今こそ新しいコンセプト技術を打ち出し、世界に対して大いにGiveする事を積極的に心掛けねばならない時が来ていると思う。そのための世界との協力、アライアンスが重要であり、先ずアジアに於ける技術のリーダーとして伝統的な東洋文化の発展のためにももっと協力する事が大切であろうと考える。

次に産業界から見て大学に強く期待することに産学協同の実を挙げることがある。現在企業にとり最も重要なこととして新事業の創出があり、真にユーザのニーズを捉えた新しい製品をタイミングよく市場に出すことこそ必要であると考え、新しい提案、事業化に力を入れている。新しい提案の中には具現のためのブレークスルーをかまえた先端的なアイデア・技術のある事が世界的に且つ長期的に発展するためにも望まれている。これに応えるべき企業の研究開発の現状は兎角目先に把われ勝ちであり要望に対して十分に応えていない。一方知恵の集団である大学には真のユーザニーズを捕む機会、事業化する為の要件を知る機会、プロジェクト的に仕事をする面等では恵まれていない。大学と企業とがより情報を交流させ、産学共同を通じ不足を補間し合い、成果を大いに活用する時が来ているように考える。

更に大学に期待したい事は人の教育である。21世紀は世界に通じる新しい技術を創出し世界に貢献する時代であり、そのためには起業化精神に満ち溢れた創造的人材が必要である。この若き開拓者精神の持ち主の育成には大学時代からの教育、生活が大きく依存していると考え。ベンチャー精神は京都大学の強い風土であり伝統的な強みである。

最後にグローバルな時代に伝統ある京都大学の電気教室の皆様が世界に向かって大いに発展されることを期待する次第である。